

は、「地域戦略策定の進捗状況」をテーマに行いました。

また、RESASを見ることはできても、それを施策に活用するのはどうすればいいかわからない、といった声にお応えして、5回連続講座「TAMA地方創生スクール」を今年5月27日にスタートしました。緊急対応であったため、経費を参加自治体で負担し合うようなイレギュラーな形であったにも関わらず、6市に参加いただきました。

4. 広域連携と自治体支援が必要

地方創生にこれまで関与して感じたことを整理したところ、ポイントは2つ。まず1つは、「広域連携の必要性」です。政令指定都市等人口規模が大きな自治体の動きと、多摩の自治体を比べると圧倒的にスピードや内容が異なります。特に産業振興への力の入れ具合が違います。また、地方の自治体の危機感は半端ではなく、特に観光に依存していることもあり、1市だけではどうすることもできない現状の共有が進んでいます。また、子育て支援策等についても、近隣自治体で同様の施策を行っている例も少なくありません。であれば合理的に広域連携を行うことはひとつのポイントだと思います。そのための説明にこのRESAS等を活用することで、当初は分野別や施策ごとにでも連携することができるのではないかと感じています。

もう1つは、自治体を応援する志の高い機関が必要だと思います。そこから、PDCAやKPI等これまでに自治体にはなかった考え方？もたくさん出てきます。やはり地域のことを「自分事」として一緒に歩んでいく機関が必要です。もちろん、私どももその重要なひとつであると認識しています。他にも「産学官金労言」といわれる、地域産業や商工団体、大学や高専、地域メディアやNPO、そして市民との協働も大切です。それぞれの機関が形式的ではなく、ざっくばらんに膝を交えた議論を行い、初めてのことも多い中、失敗を恐れずJUST DO IT!で動いていくことが必要だと思います。

5. 多摩地域は都会か？地方か？

地方創生は「都会から地方へ」ということが合言葉になっています。では、多摩地域はそのどちらでしょうか？多摩地域は23区の西側にある地域です。もちろん東京都の一部ですが、立川から都心に行くときに、「東京に行って来る」といって出かける人もたくさんいます。自分も東京都に住んでいるのに「東京に行って来る」はよく考えるとおかしな話です。東京都内にある、地方が多摩地域なのです。それを「郊外」と呼ぶのかもしれませんが。

人口減少の波が西多摩のほうから押し寄せてきています。また、多摩ニュータウンをはじめ未曾有の高齢者増が迫ってきます。企業数が減少し、まちがどんどん変わっていく…。まさしく地方創生が必要なのは多摩地域なのではないでしょうか。都市と地方に2つに分けるのではなく、その間にある「郊外」といったところも考えていかないとはいけません。

6. 地域や企業をつなぎ合わせ

地方創生のときに、「地域中核企業」という概念がでてきます。まち・ひと・しごと創生本部の資料によると、地域中核企業は以下の3類型が考えられるようです。

①コネクターハブ企業

地域の中で取引が集中しており、地域外とも取引を行っている企業をいう。その中でも、特に地域経済への貢献が高い企業、具体的には、地域からより多くの仕入を行い、地域外に販売している企業をいう。

②雇用貢献型企業

雇用創出・維持を通じて、地域経済に貢献している企業をいう。自社のみならず、仕入先や販売先等の雇用への貢献度も勘案できる。

③利益貢献型企業

利益及び納税を通じて、地域経済に貢献している企業をいう。自社のみならず、仕入先や販売先等の利益・取引への貢献度も勘案できる、とあります。

多摩地域の地域中核企業はどの企業なので

しょうか？大企業の研究所やニッチトップ企業は多数あるのが特徴かと思いますが、コネクターハブ企業がどのくらいあるのでしょうか？雇用貢献型企業や利益貢献型企業は地方のそれらとどの様に違うのでしょうか？これからのRESAS等の活用が待たれます。

7. 島しょも多摩も魅力いっぱい!!

話をまた新島村と調布市に戻します。今回新島村にご一緒したのは、一般社団法人調布アイランドの代表の丸田氏です。皆さんは調布アイランドをご存知でしょうか？最近マスコミでもよく取り上げられています。調布飛行場を有することを市の地域資源と捉え、新島をはじめとする離島から、新鮮な魚介類や島野菜そして、島焼酎等の加工品を飛行機で運び、調布市内の加盟飲食店を中心に流通させている一般社団法人です。この法人は、調布市在住の丸田氏が旅行会社を定年退職された後、セカンドライフとして地元調布で立ち上げました。島と調布市の両方が活性化している点で非常に興味深い取り組みです。彼のアイデアと行動力が、新島村にも新しい息吹を吹き込んでいます。新島村の漁師や農家の皆さんが輝いていました。また、調布市では新鮮でおいしい魚がどこよりも早く食べられます。そのおかげか、わざわざ京王線に乗って調布市までランチを食べに行くという人が増えてきています。まさに新島村と調布市という飛び地での広域連携です。こういったつなぎ合わせを自治体や私ども信用金庫はもちろん、丸田氏をはじめとする市民とも協働して行くことが求められています。



▲調布アイランドホームページ
：調布アイランドホームページから引用

流人の島、サーフィン、モヤイ像、くさやといったイメージだけだった新島村は、定置網漁船の漁師さんやアメリカ芋の農家さんとその芋で焼酎を作る経営者、島の歴史や自然をしっかりと語る若き学芸員や獲りたての魚をさばいてくれた宿のオーナー、くさや汁に浸ける女性たち、ガラスアートのスタッフ…。



◀定置網で獲れた魚

▶新島名物くさや

このつながりがなければ出会わなかった人々との素敵なふれあいに溢れる島でした。

なんといっても調布飛行場まで147km、35分のフライト。一瞬で着いちゃいます。美味しいお魚と素敵な人に出会える新島村。超おすすめです!!今年の夏は東京のリゾート伊豆諸島にぜひ!!そして素敵な調布市を始めとする多摩地域にもぜひ!!あなたのアクションが、RESASに反映されるかもしれませんね!?



◀新島でみる夕日

▶島の皆さんとのふれあい
(前列中央が筆者)